**台湾工作機械情報**

**2024年1月15日**

* **工作機械工業会第6回第2総会 会員サービスの深みと幅を広げるための専門委員会**

　台湾工作機械とパーツ工業会（TMBA）が10月18日、第6回第2会員総会およびボランティア連盟賞贈呈式を開催した。 国内の各公共団体や学術研究機関の代表者が出席し、産官学研が一堂に会して賑やかで非日常的な会合となった。

　今回の総会は、陳伯佳氏が工作機械工業会会長に就任してから初めて議長を務める総会となった。工作機械工業会に現存する7つの専門委員会の役割と、全理事幹事のサポートの下、シンクタンク委員会を中心に、工作機械工業白書を発展の方針として、技術研究開発、市場開拓と販売、産学協力、省エネと二酸化炭素削減、サプライチェーンマネジメント、公共福祉などの分野で発揮されている成果など一つ一つ説明された。

技術委員会が工業規格を推進してこれまで、200社以上の国内企業がこれに応じ、多くの設計・品質規格を作成し業界で適用し始めた。今後は、グリーン工作機械技術、スマート部品、国内生産の主要部品の適用といったテーマに焦点が当てられる。産学委員会は以前から人材育成に関心を寄せており、政府の省庁間リソースを積極的に活用してiPAS業界の人材能力鑑定を推進することで、業界人材の問題を現実的に解決、業界人材機能の育成を実施している。

　今年、ESGに焦点を置き、E(環境保護)委員会は、工業開発庁、全国工業連合会とともに、炭素インベントリーコースを多数開催し、工作機械業界における炭素削減のための国内初となるサプライチェーンを構築した。 同時に、TMBAは工作機械のPCRを推進し、工作機械および部品業界のカーボンフットプリント係数の設定を支援、業界の炭素インベントリーの完成を早めることを宣誓した。また、G（コーポレート・ガバナンス）委員会は、サプライチェーン・マネジメントに重点を置き、会員企業が徐々にデジタル・サプライチェーン・マネジメント能力を確立、工作機械業界のサプライチェーンの強靭性を高めるよう支援している。

今年2月、S（企業社会責任）委員会は会員企業にトルコの地震被災者への義援金と物資の寄付を呼びかけた。TMBAは、政府の災害救援活動に対応する国内初の業界団体となった。また、工業会名義でボランティア同盟を設立し、山岳浄化活動に参加した。49ヘクタールの聖愛山莊は高齢者福祉に力を入れており、高齢者学校と活動センターを設置している。裏山は野生動物の自然生息地で人里離れた場所の維持は難しいため、ボランティア同盟のS会員が率先して園内の環境整備を手伝っている。 また、恵まれない人々を支援するために、寄付という形で祝日のギフトボックスを購入した。 さらに、盈錫精密、永進機械などの企業と提携して、学生訪問を計画し、生徒のキャリアに対する理解とビジョンを豊かにすることで、教育と企業の社会的責任を結び合わせた。今大会では、ボランティアの努力を称える特別表彰が行われた。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2023，NO.156 頁92-93）

* **30年にわたる工芸、未来への革新　PMC30周年記念**

財団法人精密機械研究開発センター（以下PMC）は、「30年にわたる工芸、未来への革新」を創立30周年のテーマとし、継続的な改善と卓越性の追求を宣言した。11/17当日には王美花経済部長をはじめ、産業協会、企業、メーカー、300人近い来賓が出席し、式典と謝恩会が開催された。

　經濟部長王美花は次のように語る。「PMCは30年にわたり、政府と産業界の橋渡し役として重要な役割を果たしてきた。ネットワーク化政策の推進に尽力し、過去5年間で400社、1万台以上の機械ネットワーク化を支援、機械メーカーや工作機械メーカーとも手を携えてマスク製造チームを結成した。全世界でマスクの供給が需要に追いついていなかった際に、台湾は流行病を適切に制御、2020年世界経済がマイナス成長した際、台湾はむしろ3.39％の増加を見せた。」

また王部長は、「経済成長が好調で、政府の税収が予想を上回ったので、PMCは経済部のコロナ禍後補助金条例によって、さまざまな産業分野の中小企業がスマート化と脱炭素化に対する国際的な需要の突破口を模索できるよう支援している」と説明。今年、中小企業向け設備の更新と改良のために国内設備の受注は20億ドル以上に達した。

　PMCの荘大立会長はスピーチの中で次のように述べた。「長期にわたるご支援とご指導をいただいた経済部と工業局長、これまでの基盤を築き上げてきたリーダーとメンバーたちに感謝するとともに、長い間常に私たちを支えてくれた業界の先輩がた、そして私たちの使命を達成するために常に寄り添ってくれた優秀な同僚たちにお礼を申し上げたい。PMCは台湾で最も重要な産業クラスターである大肚山の黄金地溝帯に位置し、市場の最前線で政府と産業界を結ぶ強固な架け橋を担ってきた。「工芸」の職人魂で機械の信頼性と安定性を高め、インテリジェントな台湾を創造するという政府の政策ビジョンを支援してきた。今後も業界のバックボーンとして、国内の技術、アプリケーション、試験・認証のアップグレードを支援し、産業チェーンを完成させるためにより多くの機械人材を育成していきたい。」

今回の30周年記念式典のビジュアルは、「グローバル・インテリジェントな未来都市のためのパイロット構築」をコンセプトにデザインされた。PMCの絶え間ない革新と未来へのビジョンを示し、そのマクロな視野、ユニークな洞察力と革新的な技術で、業界が新たな高みに到達するよう伴走し続け、台湾の精密機械業界をグローバルなスマート製造の未来に引き連れていきたい。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2023，NO.156 頁102）

* **2023MTAベトナムハノイ展示会　過去最大規模の台湾パビリオン開催で北ベトナム市場を攻略**

2023年第9回ベトナムハノイ国際工作機械・金属加工設備展が10月11日、ICE国際展示センターで無事に開催された。

17以上の国と地域から143社が出展、そのうちの74％が海外からの出展で、台湾、米国、フランス、ドイツ、イタリア、スイス、オランダ、ベルギー、日本、韓国、オーストラリア、シンガポール、中国、タイ、インド、その他ベトナムからの出展があった。展示センターには、韓国、イタリア、台湾3カ国のパビリオンが出展された。今回、当協会のサービスブースを含む27のメーカーが合計52のパビリオンを構成、総展示面積は468平方メートルで、総展示面積の3分の1近くを占め、今年度最大の国家パビリオンとなった。

　開幕式終了後、主催者はVIPツアーを台湾パビリオンへと案内した。岸揚、心源、上銀がベトナムオートメーション協会（VAA）とベトナム機械工業会（VAMI）の副会長と事務局長に精密機械と製造分野における台湾の最新製品と機械の数々を紹介した。

　来場者数は徐々にコロナ禍前の水準に戻り、多くの来場者やバイヤーが訪れて商品について問い合わせをしたが、景気低迷の影響で実際の売上はまだ伸び悩んでいる。今大会の主催は、マーケティングとパブリシティに多大な努力を払った。フォトブース、バスケットボールのインタラクティブ・エリア、ハッピーアワーを企画し、会場を巡回するロボットを手配して宣伝資料を送付した。

　黒と紫をメインビジュアルとした台湾イメージ館は、白と青の淡い色彩ブースの中でひときわ目を引いた。 出展者は、展示の成果や台湾国家イメージ館の描写に大変満足し、多くのメーカーが継続的な出展を希望していた。来年のベトナム市場についても明るい見通しだ。ベトナム政府の政策やビジネス全般について政府がより明白にすることで、台湾メーカーが即座に対応し、市場で主導的地位を獲得できるように願いたい。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2023，NO.156頁 103）

* **2023台湾工具機械産業レビュー**

財務部関税総局情報処理局が提供した我が国各関税輸出申告データによる台湾工作機械とパーツ工業会（TMBA）統計によれば、2023年1月から9月までの台湾工作機械輸出総額は約19億7900万米ドルで、前年比11.4％減少した。金属切削工作機械の輸出額は10％減の16.9億米ドル、金属成型工作機械の輸出額は19.2％減の約2.9億米ドルであった。前月と比較すると、2023年9月の工作機械輸出額は2023年8月と比較して1.7％減少。そのうち金属切削工作機械の輸出額は1.1％増加、金属成型工作機械の輸出額は16.4％減少した。

　2023年1月から9月までの金属切削工作機械の主な輸出機械は順に総合加工機、輸出額は6.81億米ドルで前年同期比12.9％減、第２位の旋盤は5.04億米ドルで前年同期比1.3％増だった。金属成型工作機械の輸出においては、鍛造、プレス成型機の輸出額が2.31億米ドルで前年同期比17.2％減少した。

　台湾工作機械部品パーツ工業会（TMBA）によると、2023年1月から9月までの台湾工作機械の輸入総額は約4億7700万米ドルで、前年同期比29.2％減少した。そのうち、金属切削工作機械の輸入額は33.1％減の約3億9500万米ドル、金属成型工作機械の輸入額は0.6％減の約8171万米ドルだった。

　機種別に分析すると、金属切削工作機械の輸入第1位は放電、レーザー、超音波工作機械で、輸入額は約2.14億米ドル、輸入総額の44.9％、前年同期比26.2％減、主な輸入国は日本、中国（香港を含む）、スイス。第2位は旋盤で、輸入額は5,692万米ドル、輸入総額の11.9％を占め、前年同期比44％減、主な輸入国はタイ、日本、中国（香港を含む）。

　輸入国（地域）別分析では、2023年1月から9月までの台湾輸入国（地域）トップ10は、日本、中国（香港を含む）、ドイツ、タイ、スイス、イタリア、韓国、米国、シンガポール、フランス。台湾が日本から輸入した工作機械輸入額は約2億4,100万米ドルで輸入総額の50.5％を占め、前年同期比30％減、２位の中国（香港を含む）からの輸入総額は約5,900万米ドルで12.4％、前年同期比45.9％減、３位のドイツは輸入総額3,901万米ドルで10.7％増加した。

* **最近のニュース**

**中国によるECFA取り消しを懸念　財務部長：輸出は欧米分散で成長**

【2023-10-02 中央社】

　莊翠雲財政部長が本日、立法院財政委員会に赴き業務報告と質疑にこたえた。議員たちは今年、中国が台湾に対して行った貿易障壁調査に関して懸念している。優遇措置リストの早期受領が取り消された場合、最も影響を受けるのは工作機械、紡績、鉄鋼産業だ。

　莊翠雲氏は次のように語る。「財務部および財務部が中国と取引する公的機関の業務範囲は主にアルコール飲料。台湾のお酒についていえば、中国への販売量も金額も比較的少ない。ECFAは、経済部をはじめとする関係省庁が詳細なアセスメントを行い、対策を検討してくれると信じたい。」

　「近年、台湾は輸出市場を分散させている。欧州、米国への輸出が伸びており、AIのビジネスチャンスでは、欧州へのサーバーやその他の商品の輸出が大幅に上昇した。」

　財務部統計によると、8月台湾の対欧米輸出はAIのビジネスチャンスの恩恵を受けた。サーバー、グラフィックカード、サウンドカードなどの情報通信製品の購買が好調で、年間成長率はそれぞれ8.8％、2.1％となり、輸出額は前年同月で最高となった。一方、台湾の中国・香港向け輸出は年初来8ヶ月間で23.4％減少した。輸出全体のシェア率は35.3％、同期間としては過去約20年間で最低となった。

**工作機械工業会「以・巴の対立が拡大、市場の不確実性高まる」**

【2023-10-12 中央社】

　台湾工作機械工業会が本日正午、9月の台湾工作機械輸出が8月比で1.9％減少、前年同期比で4.5％減少したと発表した。今年1～9月の工作機械輸出累計額は前年同期比11.4％減少した。

　同工業会によると、今年1～9月の台湾工作機械輸出国トップ10は、輸出額順に中国（香港を含む）、米国、トルコ、インド、オランダ、ドイツ、ベトナム、イタリア、日本、タイだった。

　工作機械業界の先行きについて同工業会は、イスラエルとパレスチナの紛争が拡大し、ロシアとウクライナの戦争は依然として膠着状態で、原油の国際価格も変動しているため、世界経済は再びインフレの圧力によって、市場がますます不安定になる、と指摘した。

　日本工作機械工業会が発表した9月の工作機械受注速報によると、日本の工作機械の受注額は前年同期比11.2％減となった。今年1～9月の日本工作機械累計受注額は、前年同期比15.8％減少、インド、ドイツ、メキシコなどの主要消費市場では成長が見られたが、その他の地域では消費需要が減少した。

**国内外での受注は依然厳しく製造業では1,200人以上が無給休暇中**

【2023-10-24 中央社】

　労働省が本日、労働休業の減少に関する最新の統計を発表、この期間、製造業を中心に件数や人数が増加し、1,200人以上に増加したことを明らかにした。

　労働部が発表した労働行政当局への届け出によれば、景気悪化の影響により労働時間を短縮した事業所は424件、従業員総数19,933人だった。前回発表の398件、9,631人に比べ、26件、1,302人の増加となった。

　労働省労働条件・雇用平等局の李思嫺局長は中央通信社に次のように話す。「今期人数、件数が増加した主な業種は製造業、金属・機械・電気産業においてはとりわけ際立った。自転車部品やコンポーネントを含め、3つの新しいメーカーが合計800人シフト休暇の増加を実施したほか、工作機械業界でも連続160人以上に適用された。」

　「製造業は国内外からの受注が減少したため、追加の休みを取った。卸売・小売業においても製造業の影響を受けている。ただ、その増加率は製造業ほど大きくはない」。

統計によると、この期間に実施した製造業事業所数は238件、9772人、卸売・小売業事業所数は115件、871人であった。

**工研院 IEKCQM：2024年の製造業生産高は5.49％増と予測**

【2023-10-24 経済日報】

　工業技術研究院が本日「2024年台湾製造業展望フォーラム」を開催、2024年における台湾製造業の見通しを発表した。世界的な需要の低迷と海外からの受注の減少により、2023年台湾の製造業は在庫の調整に直面した。在庫が徐々に消化されるとともに外需はインフレの緩和と新興技術用途の構造的需要に牽引され、緩やかに改善、製造業生産高は2024年にはマイナス成長からプラス成長に転じ、年間成長率は5.49%になると予想される。

工研院IEKCQM予測チームは、インフレ率は鈍化しているものの依然として下がる見通しがなく、各国の中央銀行が急激な利上げを行い需要に影響を与えていることもあって、2024年には先進国の発展が鈍化する見込み、世界経済の成長は依然として新興国の牽引力に依存することになるだろうと指摘した。主要国の製造業PMIは依然として縮小しているものの、そのほとんどが数ヶ月連続で上昇しており、回復が強まっている。

輸出の緩やかな改善に伴い、我が国製造業の在庫水準は正常値まで回復し、産業景気も徐々に回復していけば業者の投資意欲も強まることだろう。省エネ設備への投資によって民間投資がプラスに転じると予想される。外需の改善、前向きな投資、安定した消費により、わが国の経済成長の勢いは増している。しかし、地政学的緊張、繰り返される軍事紛争、経済的乖離の拡大、中国住宅市場の弱体化、商品価格の変動は、世界経済に一定のリスクとなり、引き続き注意を払う必要がある。

**2023年台中国際工作機械展：10億ドルの商機到来**

【2023-10-29 経済日報】

　経済日報社主催の、中部地区で最も専門的な工業展示会である「2023台中工作機械展」が11月3日から7日まで台中国際展覧館で開催される。この展示会には、上流、中流、下流の各業界から300のメーカーが集まり、700以上のブースが設けられた。ビジネスチャンスは10億ドルと推定される。

　2022年、台湾機械産業の輸出額は11.2％増加、生産額は1兆4500億ドルに達した。米中貿易戦争、ロシア・ウクライナ戦争、インフレなどが要因となり世界経済は悪化したが、台湾の機械輸出額と生産額は過去最高を記録した。

台湾の機械設備は「より省エネ、より高速、より低損失」な設備と研究開発技術をハイライトに、世界でも高い競争力を誇っている。

　今年の展示は、スマート機械、デジタルトランスフォーメーション、持続可能なグリーンエネルギー、低炭素技術に焦点を当て、スマート機械の研究開発と応用を紹介する。また、台湾中部のスマートファクトリー産業地帯を通して世界の工作機械産業のエコシステムを結びつけ、インダストリー4.0の相乗効果を完成させていく。

**革新的プラットフォーム / 工作機械業界向けAI精密加工**

【2023-11-01 経済日報】

　工作機械は台湾の重要な輸出産業だ。機械工業会統計によると、2022年工作機械の世界生産額は877億米ドルになる。 近年、知能化とAI技術の発展に伴い、工作機械市場はカスタマイズ化、高精度加工の需要が大幅に増加している。

　工研院スマート機械技術センター長の王仁傑氏は、「国内の工作機械オペレーターの多くは中小企業なので、高い加工精度が市場で求められる中、変革に必要なコストやリソースを捻出するのは困難」と述べた。このペインポイントを打破するため、工研院は研究所内に5つの研究ユニットを統合し、クロスドメインチームを結成、2年がかりでワンストップ加工技術の構築に成功した。

　AIに最適化された精密製造技術は、工作機械や工作機械による加工精度を20ミクロンから5ミクロンに向上させ、ハイエンドの半導体分野やその他の加工市場のニーズを満たすだけでなく、高度にカスタマイズできるという利点もある。

　この技術は30分で精密に調整することができる。従来は14日間を要したが、これはその100倍の速さだ。 カスタマイズされた加工ニーズに合わせて装置を迅速に調整することができ、しかも温度の影響を受けないので、高精度の要件を満たすために特定の実験室環境で実施する必要もない。環境コストとメンテナンス費用を大幅に削減することができ、メーカーが国際市場をつかむのに好都合だ。

**止まらない円安　機械業「受注はすべて日本に奪われた」**

【2023-11-02 経済日報】

　円相場が151ドルの壁をぶち破った。台湾機械工業会の魏燦文会長は昨日「本当にひどい」と叫んだ。台湾工作機械と日本との価格差がどんどん縮まって、「受注はすべて日本メーカーに奪われた」。魏氏は、台湾の輸出を救うために中央銀行が少なくとも台湾ドルを35元まで下落させることを強く提案した。

　魏燦文氏は次のように語る。「ロシアとウクライナの戦争はまだ終結しておらず、最近イスラエルとパレスチナの戦争も再び勃発、地政学的対立は激化し、企業は追加設備購入のための投資を恐れている。現在、主要な競争相手の1つである日本は、日本円の大幅な減価を見逃しており、台湾の工作機械輸出の競争力はより深刻な課題に直面している。」

　台湾機械設備第1〜3シーズンの輸出額は220.44億米ドルで前年同期比17.1％減少、そのうち第1〜3シーズンの工作機械輸出額は19.79億米ドル、前年同期比11.4％減少した。

**機械設備輸出の不況が拡大　製造業は購買にためらい**

【2023-11-09 経済日報】

　業界景気は楽観的ではない。 台湾機械工業会は昨日、10月の機械設備輸出額を発表、前年同期比18.0％減少した。今年10カ月の累積輸出額は17.2％減少、年間減少幅は拡大し続けており、台湾ドルでは約12.6％のマイナスとなった。

　台湾機械工業会の魏燦文会長は次のように指摘する。「台湾は世界的な景気低迷の影響を受け続けている。機械産業全体の輸出は15ヶ月連続の不況にされており、10月の輸出衰退幅は拡大、製造業は経済発展に対してまだ慎重な態度で設備投資にも保守的であることと見受けられる。 その中で、10月の工作機械業界輸出額は24.4％減少し、9ヶ月連続の不況に陥っている。

　同工業会の統計によると、今年1～10月の機械輸出額トップ3は、電子機器16.1％（前年同期比8.2％減）、検査・測定機器15.6％（同6.9％減）、工作機械8.9％（同12.8％減）の順だった。 今年1～10月の機械輸出国トップ3は、中国（23.7％）、米国（23.5％）、日本（8.0％）だった。

　魏燦文氏は、「機械設備は資本財であり、現在の世界経済は依然として静観の態度が強い。機械設備の調達受注は競争が激しく、為替レートは受注能力に影響を与える重要な要因となっている。」と述べた。

　今年、台湾ドルの為替レートはアジアの競合相手よりもかなり強く、11月初旬までの累積減価率はわずか5.78％だった。

**無給休暇取得者1万人突破！ 冷え込む製造業 工作機械で100人超も**

【2023-11-16 経済日報】

　無給休暇取得者数が再び1万人を突破。 労働省は本日、無給休暇取得者数の最新統計を発表した。 現在390社、10,231人が無給休暇を取得しており、前期より26社、422人増加している。 最も増加しているのは金型業を含む金属電気機械工業で、100人以上になっており、製造業における無給休暇の状況がまだ冷え込みを見せていないことを反映している。

　労働省によると、現在221の製造業企業、9,186人の従業員が無給休暇中、これは従業員総数の90％を占め、前期より18社、395人増加した。

　製造業の4大産業のうち、最も打撃を受けているのはやはり金属機械・電気産業で、現在無給休暇中の企業は146社、6,051人、前期より15社、403人増加した。情報電子産業では、現在無給休暇中の企業は35社、1,924人、前期より3社、63人増加した。

　化学工業は19社878人で前期より1社5人増加、生活産業は21社、333人、前期より1社、76人減少した。

**炭素削減PCR推進　業界のカーボンフットプリント計算基準を確立**

【2023-11-24 中央社】

　台湾工作機械・パーツ工業会が本日、工作機械のカーボンフットプリント算出のための範疇とルールを確立するため、第4シーズンに製品分類規則（PCR）の実施を開始すると発表した。

　工作機械工業会はプレスリリースで次のように指摘した。「『製品分類ルール』は工作機械の主な製品分類基準に基づいており、初めは総合加工機、旋盤、ドリル／ライニング／フライス／タッピング／スレッディング、研削盤、パンチングマシン、放電／レーザーなど6つのカテゴリーを対象に、カーボンフットプリントの算定範疇とルールは工業会の委員会運営を通じて実施される。」

　「10月1日に欧州連合が炭素境界調整メカニズムを試験的に導入し、米国では早ければ来年からクリーン競争法が施行されるため、台湾の工作機械サプライチェーンのグリーン化を推進することが急務となっている。」

「今年は、工業開発局および全国工業連合会と共同で台湾初、工作機械の炭素削減チェーンを構築する。すでに炭素削減の成果を上げている東台精機、台中精機、協易機械、永進機械、上銀科技などの大小企業を引き連れて、工作機械および部品大手メーカーでの炭素削減産業チェーン投資を奨励した。」

　工作機械工業会によれば、今年も温室効果ガスインベントリーとカーボンフットプリントに関する一連のコースを通じて、会員が二酸化炭素排出量に関する知識とカーボンフットプリントの計算能力を深められるよう支援する。

**機械工業会「製造設備への保守的な投資半導体電子設備は回復へ**」

【2023-12-11 中央社】

台湾機械工業会によれば、景気は底打ちの兆候、サプライチェーンの在庫も徐々に正常値に戻り、台湾の対外貿易も安定しつつある。工作機械の輸出もわずかながらプラス成長がみられるだろう。

機械工業会が午後、11月の機械輸出額を発表、10月に比べ5.83％増加した一方、台湾ドル換算では前年同期比3.3％減少した。 機械輸出全体では、前年同期比で16ヶ月連続のマイナス成長となったが、11月の輸出ではマイナス幅が縮小した。 中でも11月の工作機械輸出額は10月と比べ3.3％増加したが、前年同期比では20.1％減少し、10ヶ月連続のマイナス成長となった。

　台湾工作機械パーツ工業会は、研究所の経済見通し報告書をもとに「欧州、新興市場、発展途上国の経済パフォーマンスは改善しているが、中国、米国における消費と投資の不利な要因により、世界経済は依然として低迷している」と分析。

機械工業会は、台湾ドルは他のアジアの競争相手と比較して最も減価が少なく、台湾の機械設備は価格競争の圧力に、特に日本機器との競争に不利な状況に直面していると指摘。 同工業会は、台湾の機械設備輸出の競争力を維持するには、台湾ドルの減価率を競合国のそれに近づけるべきだと提案している。

**魏燦文「機械産業ブーム、来年後半明らかに」**

【2023-12-12 経済日報】

　台湾機械工業会の魏燦文会長は昨日、台湾は世界的な景気後退の影響を受けていることを指摘した。機械産業は今年、かろうじて兆ドルの生産額を維持することができるが、全体的な情勢が明らかになるのは来年後半以降になるだろう。

　台湾機械工業会は昨日、11月の機械設備輸出額が年率4.4％減、16カ月連続減少したことを発表した。11か月間の合計輸出額は16.2％減、台湾ドルで約12.6％減少した。

　同工業会の統計によると、今年1～11月の機械輸出額トップ3は、多い順に電子機器16.4％（5.2％減）、検査・測定機器15.6％（6.8％減）、工作機械8.9％（13.5％減）となっている。

　11ヶ月間の機械輸出国トップ3は、米国63億2,300万ドル、中国63億2,000万ドル、日本21億9,600万ドルであった。

　最近アジア通貨全般が上昇し、台湾ドルレートも上がってきてはいるが、台湾ドルは今年これまでのところ、アジアの競合国より著しく強いままだ。12月上旬までの累計で、台湾ドルはわずか2.6%しか下落していない一方で、韓国ウォンは4.38%、人民元は3.8%、日本円は12.36%も下落している。

　台湾機械設備輸出は、価格競争、特に日本の設備との不利な競争の圧力に直面している。 魏燦文氏は、注文はほぼ日本のメーカーに取られていると述べた。

**中国における貿易障壁調査　機械工業会「工作機械への影響は大きくない」**

【2023-12-15 経済日報】

　中華人民共和国商務部が発表した対台湾貿易障壁に関する調査結果を受け、台湾機械工業会の魏燦文会長は次のように述べた。「今回調査された2,509品目のうち、機械に関連するものはほとんどなく、機械設備産業への影響は極めて限定的だ。 また、中国側はフォローアップ措置を提案していないため、現段階では直接的な影響はない。」

　現段階では、調査報告書に記載された2,509品目のうち、機械部門の84章には23品目しかないが、台湾機械産業の範疇にあるのは5品目だけで、そのほとんどがエンジンシリンダーとその関連部品であり、この5品目は台湾からの輸出よりも輸入の方が多いため、台湾の機械産業に与える影響は非常に小さい。

　魏燦文氏はまた、「調査報告書ではECFAについて触れられているが、この枠組み協定が両岸産業にもたらす実利に焦点が当てられており、両岸貿易をより円滑にするための両岸関税引き下げも期待できる。」

　米中貿易戦争や生産拠点の分散を考慮すると、近年、中国への台湾機械輸出金額は減少傾向にある。今年最初の11ヶ月間、中国向け輸出額は23.5％、米国に次いで2位、日本は8.2％で3位だった。

**工作機械に春　来年後半には痕跡残せるか**

【2023-12-17 経済日報】

国内の工作機械工場は引き続き無給休暇、さらには工場閉鎖のニュースが噂されている。台湾工作機械とパーツ工業会の陳伯佳会長などはみな、景気後退が徐々に回復するのは来年後半になるのではないかと懸念している。

　陳伯佳氏は、「台湾の工作機械業界は、市場の低迷に遭遇しつつも悲観的ではない。来年３月に開催される台湾国際工作機械見本市は、経済復活のためのウォームアップになることが期待されている。南港展覧館で開催される 『台湾国際工作機械見本市』は、550以上のメーカー、3,300ブースが出展する。オーダーを勝ち取るために全力を尽くしたい」と述べた。

　陳伯佳氏はまた、「景気の悪化は工作機械業界だけでなく、製造業全体に打撃を与えている。 金利上昇、インフレ、戦争、地政学、エネルギー危機、その他の変数が世界市場における投資需要を引き締めている。」

　工作機械産業チェーンの強靭性を強化するため、陳伯佳氏は同工業会の会長に就任後、「工作機械産業白書」を産業発展のビジョンとしてきた。デジタルトランスフォーメーションとグリーントランスフォーメーションという2つのエンジンを推進し、国内の工作機械メーカーと部品メーカーがデジタル化と持続可能なグリーン能力を構築できるよう支援している。

　欧米経済は底を打って回復しているものの、世界経済の回復が遅れているため、市場の需要に構造的な調整が生じ、経済成長が制限されることが予想されると陳伯佳氏は考えている。

**ECFA早期関税優遇措置が停止　経済部長「工作機械業界向けカウンセリングを強化」**

【2023-12-31 連合報】

　王美花経済部長がインタビューに応じ、TSMCの海外投資は台湾を空洞化させるものではなく、むしろ台湾の国力を伸ばすものであり、高度な製造工程は台湾に残し、あくまで台湾拠点とすることを強調した。

　最近のECFA騒動について、王美花氏は「政府の一貫した態度は挑発するものではない」とし、「中国本土のコロナ流行から現在の回復までのスピードは期待したほどではなく、外資も相次いで撤退しており、状況は非常に危険なようだ」と述べた。また、「中国に簡単に取って代わられないような製品を製造しなければいけない。例えば半導体や、最近のAI関連産業、これは最近のICT製品の急成長要因で、台湾のニッチでもある。」とも述べた。

　中国本土はECFA早期リストのうち12の石油化学製品について関税優遇を中止した。外界は、工作機械、繊維産業などの他の産業への影響を心配している。王美花は「もし影響を受ける場合は、工作機械産業へのカウンセリングを強化し、必ず面倒をみる。必要な場合はさらに多くの資金を援助する。」と述べた。